

安全活動の見える化に向けて



直方分会長 谷口正晴

福岡県の建設業における平成23年度の労働災害による死亡者数は関係行政機関のご指導のもとに安全衛生運動を展開した結果12名と減少し過去最少となりました、しかし労働災害はあってはならないものであります。

我が国の危険作業を伴う現場を抱える組織は、ほぼ例外なく経営方針の大きな柱に安全第一を掲げています、安全で定義する安全とは「行動の結果」であり目的や目標ではないと考えられます。

安全第一の由来は1906年(約100年前)アメリカのUSスチールのゲーリー会長が、余りにも労災事故が多い為会社の経営方針を「生産第一」「品質第二」「安全第三」から「安全第一」「品質第二」「生産第三」と改め何よりも安全を優先したとのことです。

その結果災害が減少し、製品の品質向上、生産量も増え大きく会社が飛躍したそうです。その後「安全第一」の経営方針は世界中に広がりました。

平成24年3月国土交通省より建設工事事故防止の重点目標として

1. 交通事故防止 2. 重機事故防止 3. 足場、法面からの墜落防止等の対策を講じるよう通達がありました。

これを踏まえ、安全週間にさきがけ6月21日建災防直方分会主催で建設業や行政機関の関係者等170名の出席で安全と技術に関するとして業界初のシンポジウムを開催しました。

福岡労働局橋本安全課長の基調講演の後、パネラーとしてお招きした山田直方労働基準監督署長からは熱中症対策に係る注意事項、深町遠賀川河川事務所副所長より工事事務事故防止対策、義経直方県土整

備事務所長、篠原直方市環境部長からは実際の災害事例に基づく防災対策の注意事項等所見を語って頂きました。

又私もパネラーの一人として参加し、安全第一や技術による品質の向上と共に我々が生き残れる「生産効率」の向上を実効性のあるものにしたいと訴えました。引き続き設定された課題に対して会場からの質問を受けパネラーがそれに答えるかたちで安全の構築に向けて官・民による本質的で真剣な討論が展開され、最後に会員が「安全の誓い」を朗読し閉会しました。

私からの提言として、厚生労働省が平成23年7月に立ちあげた「あんぜんプロジェクト」に多くの企業が参加し、お互い情報交換し合い更なる安全活動の見える化を推進したいものだと考えております。

又これを機会に今後の継続事業として、安全と技術に関する勉強会を毎年6月に定例で実行していく計画です。

建設業は依然厳しい経営環境下にありますが今後も国の基幹産業として健全な発展を続け、より豊かな社会の実現に貢献していくためには、職場の安全衛生水準の一層の向上が重要です。

労働災害絶滅のため 1. リスクアセスメント及びKY活動実施の徹底 2. 重機災害防止の徹底 3. 墜落・転落防止の徹底を重点に経営トップをはじめ関係者が一丸となって労働災害防止活動を当分会は勿論のこと、福岡県土木組合連合会、遠賀川建設組合連合会と連携して取組み労働災害ゼロを目指し努力していく所存です。